

# 第1回研修アンケートとりまとめ

学校名	氏名	Q1参加動機	Q2感想等	Q3学習素材としての活用意向	Q4実施内容案または課題	Q5湿原の教育的な価値
釧路町立富原小学校	O先生	総合の学習で湿原について学習していて、今後の学習の参考にしたいと考えお願ひしました。	釧路川の再生事業を取り組む前にも学習会に来たので、一部完成しているのに感動しました。川のはたらきを学ぶ理科、そこに携わる人々の営みを社会科で教材化したいと思ひます。	ぜひ実施してみたい	現時点では総合との横断的な学習を考えています。教科の限られた時間の中で湿原の学習をするよりも、じっくり時間をかけられる総合を基盤とした学習の方がしっかり向き合えると感じます。	自分の地域にある魅力を知ることは、地域に対する思いを育むことにつながると思ひます。
釧路町立富原小学校	I先生	総合的な学習で「釧路湿原」をテーマにしているのので、今後の活動に活かすため。	たくさんガイドをしていただいて、今まで知らなかった川と生物の関係について理解を深めることができました。初めてカヌーで川を下りながら釧路湿原の自然に触れることができるとても有意義でした。	ぜひ実施してみたい	川の工事を通して釧路湿原にどのように影響があるのかについて学習し、これから自分達で出来ることは何かを考えさせる学習に取り組みたいです。	自分達が生きていく環境をどのように作っていくのかを、自分達で考えさせるための良い教材となると思ひました。
釧路市立釧路小学校	M先生	専門が理科なので、気になったのがきっかけです。普段特学の低学年を担当していて、理科を教える経験も少なく、釧路のことをもっと知りたいと思っていたこともあり、参加しました。	実際に目、耳、鼻などの五感を使って体験することは、とても大事だと実感しました。子ども達にも同じような体験をたくさんしてもらいたいです。	ぜひ実施してみたい	理科、社会科、総合などを中心に考えていきたい。映像を見せたり、実物を見せたり、或いは、講師を呼んだり、現地へ赴いたり。子ども達は授業時間以外でも習っている事を実際に調べたり、見たりしたいという子も多く、どこに行けばどんなものが見れるか、どこで化石がとれるのか、などと聞いてくることがあります。その時にオススメの場所を教えられるように私ももっと詳しくなりたと思ひました。	理科、社会、環境問題など様々な要素が絡み合っていること。普段は湿原がこんなに近くにあるということはありません。身近だけど貴重な自然であるという希少性。
標茶町立標茶中学校	M先生	釧路湿原のある町(標茶)に住んでいながら、釧路湿原を中から見たことがなかったからです。	とても良かったです。湿原や釧路川の営みを肌で感じると、子ども達に伝えたいという気持ちが強くなります。具体的な授業化へのヒントもつかむことができました。	ぜひ実施してみたい	中1理科(大地)で流水のはたらきを学習します。中1理科(大地)で地層の学習をします。地層から昔のことを知ることができ。中3理科(自然と人間)で食物連鎖だけではなく、大地そのものと人間の関わりを扱うことができると思ひます。	「湿原は地球を浄化している」=「水辺は地球を浄化している」点だと思ひます。それを知らずに開発を語るべきではないと思ひます。
標茶町立磯分内小学校	U先生	地域の自然環境について、もっと知りたかったからです。	なかなかできない経験をたくさんさせて頂き、大変勉強になりました。とても楽しかったです。	ぜひ実施してみたい	今までは、温根内やチョウの森などで総合学習の時間に活動してきました。釧路川は理科で活用したいと考えています。	地域の宝物としての価値に気付いて欲しい。そのために児童には肌でその良さを感じ、自然を守ることの大切さを考えてもらうことが教育的価値だと思ひます。
浜中町立茶内中学校	O先生	湿原等の地域の特徴を知り、授業に役立てたかった。カヌー体験を試みたかった。	川を下りながらの調査という形式だったので、非常に参加して楽しめた。新しい取り組みということなので、来年度以降はデータ等の上づみもあると思うので、何らかの形でまとめていただけるとうれしい。	検討していきたい。	学校の近くに霧多布湿原があるため、湿原という大きな視点でないと地理的要因で難しい。共通点や相違点などをまとめたものがないと難しいのかと思う。	生物多様性を身近に感じられる所が一番大きいと思っていたが、今回の研修を通して、地理的要因といった視点から考えても面白いと感じた。